

父への思い出

川崎区支部 小宮 義昭（子）

戦没者 小宮 寅吉

戦没地 ビルマ

皆無です。記憶にあるのは、昭和十七、八年頃、会社の工場が埼玉に出来たので、川崎より移り住んだこと位で、父と遊んだりした記憶は全くありません。

赤色のはがきが届き、会社に母と出向いたと聞いたが覚えがない。その後、数日を過ぎてから、静岡県須走、現在の自衛隊の駐屯地あたりだろうと思いますが、面会に向かいましたが、前日の夜に移動したとのことで、父には会うことが出来ませんでした。この日は山中湖付近に宿泊したことは覚えていますが、これがビルマへの移動だったと想像していますが、本当のことは判らず空白です。

終戦後、舞鶴港に兵隊さんの帰還船が入るたびに、ラジオから帰還される方々の名前が流れるのを、もしかして父の名前がと期待して、母と共に聞き逃さない様にと放送の都度聴いたことを思い出します。

あれから戦後六十五年、なぜ日本は遠い異国まで兵隊を送り込んで戦争をしなければならな

ったのか？

平和に暮らしていた多くの人々の生活を一変させ、財産も資源も国土にさえも犠牲をはらってまで、戦争をする価値がどこにあったのだろうか？ 戦没者の遺族として未だに疑問に思っている。